

令和6年度 第2回磐田市立図書館協議会会議録

□日時 令和7年2月5日(水) 午後3時から午後4時30分

□場所 磐田市立中央図書館2階視聴覚ホール

□出席者 委員：下村亜由美、佐藤寛子、田中さゆり、竹内恵美子、児玉恵里子、
青島公悦、岡 實、久永公子(以上敬称略)

事務局等：

山本敏治教育長

中央図書館：伊東直久館長、高杉順也館長補佐、井上隆志主査
平野義久主任、江塚理恵子主任、老川雪絵主任

福田図書館：太田雄介館長

竜洋図書館：鈴木康之館長

豊岡図書館：伊藤傑夫館長

にこっと：藤田昌弘館長

学校教育課：鈴木公宣指導主事

□傍聴人 0名

□内容 以下のとおり

議事(1) 令和6年度事業の取組状況について(以下、事務局)

磐田市立図書館は、全館でひとつの図書館という共通認識のもと、各種事業を実施してきました。その中で、重点を置いた取り組み、新たな取り組みを中心に説明をさせていただきます。

まず、重点を置いた取り組みでは、令和6年度主要事業の新たな魅力の発信として、中央図書館において、図書館フェスティバルを11月30日、12月1日の2日間にわたり初めて開催しました。これは、図書館を身近に感じていただくために、普段実施しているおはなし会、読書講演会、映画会などのイベントを2日間に纏めて実施しました。バルーンアートでの館内装飾をはじめ、キッチンカー等が出店するなど、いつもの図書館とは違う雰囲気を作りました。また、児童書作家の杉山亮(すぎやまあきら)さんを招いて、読書講演会、ものがたりライブ、鉛筆を使ったワークショップを開催した他、ナイトツアーと題して夜の図書館を体験してもらうなど、普段図書館を利用されない方にも来ていただくきっかけになったと考えます。

次に情報発信の強化として、LINEやインスタグラムなどのSNSを活用し、各図書館で実施したイベントや特設コーナーなどの写真を積極的にアップするとともに、各図書館において館独自のイベントを開催しました。中でも、竜洋図書館においては、株式会社河合楽器製作所竜洋工場と連携し、楽器工場の見学や現地でのおはなし会を実施したほか、竜洋図書館内でも歴史講座の開催と、デュオリサイタルを実施するなど、相互に会場を利用して開催することでお互いの魅力の発信に努めました。

次に、子ども読書活動推進事業として、茶の間ひととき読書運動の継続推進ではありますが、前回の協議会において、もう少し歴史的な事柄を含めた周知をというご提案がありましたので、来年度のお知らせにそのあたりを含め掲載していきたいと考えております。また、図書館ホームページ内においても「知りたい・調べたい」というコーナーでの掲載を検討していきますので、ご承知おきください。次に、学校連携用の電子書籍サービス事業を10月より開始しました。公立小学校・中学校の全生徒にIDとパスワードを配布し、いつでも、どこでも、電子書籍サービスが受けられるよう運用を開始しました。今後、利用状況の確認を行いながら、課題を検討していき

たいと考えております。

次に各館のイベントやセレモニーなど、活動状況を抜粋して掲載しましたのでご覧ください。中央図書館においては、図書館フェスティバルやスペシャルおはなし会などの開催、福田図書館では、来館者 200 万人達成セレモニーの開催、また、にこっとにおいても来館者 100 万人達成セレモニーの開催など、それぞれの館で実施したイベントなど、活動状況を抜粋して掲載しましたのでご覧ください。

次に、各館の開館状況や資料の貸出状況など、11 月末までの実績を記載してあります。まずは、にこっと及びながふじ図書館を合わせた 6 館の入館者数等を記載してあります。初めに、利用者数についてです。これは入館者のうち図書等の貸出しをした人数となりますが、6 館合わせて 22 万 6,422 人、前年度の同時期と比較するとほぼ同数となりました。また、貸出点数については、6 館合わせて 778,928 点で、前年度の同時期と比較すると 1.6%減となりました。

次に、新型コロナウイルス感染症流行前の令和元年度との比較をした資料となっております。

入館者数は、昨年同時期との 5 館平均の比較では、増加傾向であり、徐々に回復しつつあるものの、にこっと以外はまだまだ新型コロナウイルス感染症流行前の水準までは回復できていない状況であります。貸出利用者数は、昨年同時期の 5 館平均との比較では横ばいであり、新型コロナウイルス感染症流行前の水準まで回復したと考えられます。

貸出点数は、昨年同時期との 5 館平均の比較では、約 3.0%減少しており、にこっと以外は、新型コロナウイルス感染症流行前の水準までは回復できていない状況です。

まとめとして、にこっとにつきましては、子育て世帯を中心に児童書の品揃えに加え、各種イベントや気軽に相談できる有資格者の配置など子育て支援施設としての機能が充実しており、利用者にとって利用しやすい施設であると考えられます。中央図書館と各地区の図書館については、利用者(貸出)一日平均数は、新型コロナウイルス感染症流行前の水準まで戻ってきているため、市民がもっと身近に立ち寄っていただける施設としての PR や市民の読書意欲が向上するような選書の検討などを行い、安心・安全な図書館運営に務めていきます。

なお、児童サービスや障害者サービス、各館の主な事業、電子図書館の状況についても抜粋して掲載しましたので、ご覧いただければと思います。説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

〈質疑・意見〉

(委員)

読み聞かせボランティア養成講座を中央図書館で行っていますが、基礎講座は図書館職員が講師を行い一般の方向け、応用講座も対象が一般の方向け、ステップアップ勉強会も同じく行われています。基礎講座の案内は市の広報などに掲載されていますが、応用講座とステップアップ勉強会の案内を見たことがないため広報の仕方を教えてください。

(事務局)

基礎講座と応用講座は基本的にセットになっています。基礎講座、応用講座を受けられた方で、ステップアップ講座を受講されたい方が受けていただくという形になってますので、基礎講座の参加者のみに周知しています。

(委員)

市内小中学校では読み聞かせボランティアをされている方が多くいます。ボランティアをされている保護者で読み聞かせボランティア講座の初回を受けている方は分かると思いますが、

今までに学んだ方で再度学びたいと思った方や各校でボランティアをされている方などのために周知が必要ではないかと思えます。

(事務局)

読書アドバイザーの方々からもご意見を頂き、検討したいと思えます。

(委員)

令和5年度にアンケートを実施し1,536人から回答を得ています。満足、ほぼ満足という結果になっていますが、5年度決算の課題で、若年層利用者数増加につながる図書館サービスの検討をすすめていくとあります。その後の動きについて教えてください。

(事務局)

若者を取り込んでいくということはどこの図書館も1番の課題と認識しています。中央図書館は今回開催した図書館フェスティバルで、キッチンカーを取り入れました。若者をターゲットにした取り組みを行い、そこから図書館の中に足を運んでいただくことができれば、少しずつ若者が増えるのではないかと考えました。なお、図書館情報発信の中で説明させていただきましたInstagramについても、令和5年より令和6年の方が活発に活動しています。また、中央図書館だけではなく地区館についても情報発信に力を入れ、若者が図書館に足を運んでくれるよう活動しています。

(委員)

社会教育委員会でも話が出ます、不登校の子供達の居場所について、中高生が気軽に集まり話し合える居場所、中高生が勉強できる居場所として公共施設の一つである図書館の一室も担ってほしいと思えます。

(事務局)

図書館だけでその役割を担えるということは考えていません。また広報やPRをしていませんので、市民の方に認識はされておりませんが、現在図書館も見守りを行っています。そして特定の場所を設けると逆に足を踏み込み難くなるのではないかと考えますので、現在認識している子供達の反応をみて図書館としてどういう事ができるのか検討していきたいと思えます。

議事（2）令和6年度図書館評価の中間報告について（以下、事務局）

今後の図書館のあり方や計画を立てていくために昨年度の第2回図書館協議会で今年度から図書館評価を実施していく旨お伝えさせていただきました。今回はまだ年度の途中になりますので令和6年11月末現在の自己点検の中間報告をさせていただきます。なお、最終報告は令和7年度の第1回図書館協議会で報告し、外部評価として委員の皆様から内容や指標、数値目標等についての評価やご意見をいただき公表するように考えております。また、令和7年度の指標や数値目標等については、現段階で実績がなく妥当性も不明な点が多いため、今年度の評価結果や2年に1度実施予定のアンケート結果等から随時見直しをしていきたいと考えております。

中間報告につきましては記載のとおりですが、どの項目も目標達成に向けて順調であると考えています。引き続き目標の達成にむけて数値的にも事業内容的にも充実したものとしていけるよう努めてまいります。説明は以上となります。よろしく願いいたします。

〈質疑・意見〉

(委員)

地域の学習資源を生かした教育活動の推進で、茶の間のひととき読書運動参加校数は市内全小学校が参加している状況ですが、現在の小学生の保護者は非常に忙しい生活を送っています。家庭の中に本を読む時間があるという考えのこの運動は、始まった昭和の頃と令和では生活に大きな変化があると思います。そのような中で、各校と図書館で連携している取組例や、時間の無い保護者に図書館から選書について情報発信をしているなど、具体的取組があるか教えてください。

(事務局)

茶の間のひととき読書運動は家庭と学校と図書館が一体となった活動ですが、以前は協議会を開催し情報交換を行っていました。しかし先生や保護者の負担減から現在は開催していません。茶の間世代の方には年度初めにお薦め本などを掲載した便りの配布、夏休み前にも便りを配布するなど、図書館から情報を配信しています。また学校も各校様々な取組を行っています。お子様と一緒に図書館に来てくださる方も多く、その子に合った、寄り添った本を紹介しています。

(委員)

子ども食堂を営んでいる市民団体など居場所は市内色々な所にあります。そのような場にも広めてほしいと思います。子ども達が居る所に本の存在があることで、自分を見つめたり、他者とは関われなくても本とは関われる子どももいます。居場所には行ける子ども達の本と出会えるきっかけの場が市内、色々な所にあった方がいいと思います。

(委員)

茶の間のひととき読書運動は小学校で行っていますが、幼稚園や小さいお子さんがいる世代にも直接本を渡せる機会があるといいなと感じます。こづちの会でもお声が掛ければ伺うようにしていますが、中々浸透していかない状況です。図書館としても保護者と子どもを繋いでいる立場の先生や園、学校と協力して本を渡していただければ、その世代で本を読むようになり、また次の世代で本を読むようになると、繋がっていくことを考えると、小さいお子さんから行うことが大事ではないかと思います。

(事務局)

市としてまずにこつとを中心にブックスタートを実施しています。図書館としてはそのサポートを行っています。そして小学校3年生を対象に茶の間のひととき読書運動を実施しています。頂いた御意見はその間の世代が対象になると思いますが、子育て支援センターと連携を取り中央図書館、各地区館でおはなし会を実施しています。おはなし会を通して繋がりを持てるように考えています。今後どのようにステップアップしていくか検討していきたいと考えています。

(委員)

本日の新聞記事に「サードブックをどうぞ」という内容で袋井市の図書館が紹介されていました。3回目のブックスタートということで小学校新1年生を対象に行っています。磐田市でも検討していただければと思います。

福田のおはなし会の参加者が減少していますが、開始時間の変更を検討していただけないなと思います。

(事務局)

袋井市の取り組みについては、市の規模や子供の人数が比較的磐田市より小さいという事もあります。磐田市としてもできる事から行っていきたくと思っています。

また福田のおはなし会についても、福田に限らず各図書館で行っている従前の事業も見直しをして各館長と相談しながら改善を検討していきたくと思っています。子供の人数が減少している実情もあり、地区の特性も加味しながら保護者の参加できる曜日時間など、見直しを考えていきたくと思っています。

議事（3）その他について

今年度重点を置いた取り組みとして、11月30日、12月1日の2日間にわたり実施した中央図書館の図書館フェスティバルおよび竜洋図書館の奏でる図書館推進事業について、さらに詳しく紹介するために、パワーポイントにより写真を交えて説明。(説明略)

〈質疑・意見・感想〉 ※全体的な意見交換含む

(委員)

今年度から図書館協議会に参加させていただきました。大学図書館の運営に関与するようになり、図書館の運営は外から見ていただけでは分からない非常に煩雑で大変な仕事があるなか、このように様々な事業に取り組んでいることに大変驚きました。大学としてはお手本にしたい事ばかりです。

コスト削減などで導入されている指定管理者制度がありますが、磐田市立図書館は導入せず市が管理しています。働き方改革など様々なハードルがあるなか、市民への文化教養のサービスとしてナイトツアーの開催は他では見られない素晴らしい取り組みだと思っています。色々なご意見を頂いているとは思いますが、より効率的に、魅力的に、良い物へと磨いていただければと思います。

今後は、大学も様々な取り組みをしたいと思っています。まずは、図書館フェスティバルを通して協力できればと考えています。図書館を運営している皆様の思いが詰まった事業だと感じました。

(委員)

磐田市の人口の中で約1万人を超える外国人の方へ、図書館としてアプローチしていることはありますか。

(事務局)

昨年度10月頃、国際交流協会を通して外国人の方へ図書館の利用を促してみました。使い方が分からない、場所が分からないという意見があるため、まず図書館に足を運んでもらい図書館の見学や、実際にカードを作成するなどの体験をしてもらいました。ご家族での参加や、お一人での参加など会議室に約20名の外国人の方が集まりました。初めて図書館に来たなど、色々な意見を頂きました。実際に利用者カードを作成し本を借りた参加者もいます。昨年度から取り組み始め、多読本のコーディネーターをされている先生と図書館の担当者が話をし、中央図書館の多読本、外国語コーナーの今後について検討していきたくと思っています。古い本が多いため、来年度、限られた予算ですが購入を検討しています。

(委員)

企業との繋がりについて、昭和の時代は地元の企業に、ある年齢になると見学に行ったことを思い出しました。子ども達に県西部のものづくりを教えるのは工場見学が重要だと思います。世界一のピアノを製作している河合楽器製作所が竜洋に有りますが、地元の人でも何を製作しているか分からない。図書館が企業とコラボして子ども、保護者にPRできることは重要なことだと思います。楽譜が沢山ある竜

洋図書館でコラボしてピアノ演奏も行ったことは素晴らしいと思います。また磐田市には浜松ホトニクスなど多くの企業があります。これからも企業とコラボして工場見学や勉強会など行ってほしいと思います。子どもの言葉に耳を傾け、保護者の言葉、若者に至るまで耳を傾け、公共事業に反映して頂けたらと思います。

(委員)

図書館と文化振興の関係など教育委員会としての色々な部署が集まって意見を出し合えば、色々な発想が生まれると思います。今、不登校児童生徒が増加しています。5年間で2倍になっています。不登校の要因は様々で、複合的な理由が重なっているため不登校児童との関わりは、ある一部だけに関わっても難しいと考えます。色々な部署が集まって意見を出し合い、施策を検討していくことが必要と感じます。公共施設が古くなった場合、統合するか複合するかなどありますが、教育委員会がその様な視点を持てば今の様な発想が色々出てくると思います。

(委員)

図書館フェスティバルの取り組みについて、通常業務プラスこの様な新しいプロジェクトに関わるということは非常に負担が大きいと思います。本に関わるボランティア団体や関係者の市民の力もそこに加えるのはどうでしょうか。少し連絡等は煩雑になるかもしれませんが、ボランティアとして市民も関わっていける人達を募集すれば、やりがい生まれると思います。

市一丸となって行っているということも伝わるとと思います。図書館の事だから図書館の職員だけが頑張るのではなく、巻き込める所があればぜひ声を掛け、各校の読み聞かせボランティアも一緒に参加し、多くの地域からも参加していただき、本を介して、図書館を介して、市民活動が活発になるのではないかと思います。

(委員)

2年前になるとと思いますが、この会に参加させていただいた時、子供と家庭が中々本に近づいていないという現状の中、どうにか若い世代と人を介して本を繋いでほしいというお話をさせていただきました。その時、教育長が「昔の図書館の様ではいけないね」というお話をされたのを今でも覚えています。河合楽器のイベントやフェスティバルなど、行事が2年前と比べて変わったなという印象を受けています。非常にありがたいと思います。河合楽器のイベントに参加した子から直接感想を伺っています。そういう所から本と繋がっていけば良いと感じています。おはなし会の時間について、子育てをする中で行き易い時間というのがやはりあります。年代によっても全然違いますし、大きくなれば行ける時間も広がりますが、赤ちゃんはお昼寝もあります。支援センターの職員、保育園の先生は、やはりプロですのでヒントになる事は多いと思います。図書館だけで頑張らずそういう機関の情報収集は大事だと思います。近くに図書館が無い高齢世帯に電子書籍がどこまで使えるか分かりませんが、若い世代だけでなく色々な世代にも、色々な形で繋いでほしいと思います。

(委員)

学校図書館も本を読むことを楽しむだけでなく、調べる、探求するという事も進めていこうと話しています。磐田市で毎年歴史検定を行っていると思いますが、同じ様に図書館で課題を調べてみるという催しを開催してみてもどうでしょうか。何か新しいことを知るということはすごく楽しく、わくわくすることだと思います。幼稚園だったら絵本を読んだら分かるような問題にしたり、小学生だったら教科に属したような問題にしたり、中学生、大人と、レベルに合わせ課題を図書館で調べてみようという内容は、興味を持つ方もいると思います。図書館で毎年行っている全館対象のスタンプラリーの様に、図書館で調べてみようという企画は参加

してみたいと思う方がいると思います。

連絡事項

- ・任期について（令和7年6月30日まで）
- ・令和7年度第1回図書館協議会の開催について

（教育長より）

図書館に対し様々なご意見、ありがとうございます。御意見を頂くことで事務局職員も新たなアイデアが生まれてきたと思います。図書館の機能は段々、幅広になってきているとつくづく感じています。正解がない時代とありますが、様々な多様性に対応できるような、一人一人の満足感、成長に繋がる事を考えなくてはいけないということを改めて感じました。周知の仕方一つとっても今までの方法で本当にいいのか、小さい頃から本に親しませるには、昭和の時代からスタートした茶の間のひととき読書運動もこのままでいいのか。社会も大きく変わってきている中で本当にいいのかどうかということも含め、事務局として考えていきたいと思えます。

磐田市は共創という言葉を使います。共に創るという所を課だけではなく、色々な機関と、民間企業とコラボしましたが、色々な方々と手を取り合いながら、図書館の目的をまずは達成できるようにしていきたいと思えます。居場所としての図書館も必要ではないかと今日の皆様の話を伺い、その様な気持ちになりました。どういう居場所にすればいいのか、これも正解はないと思えますが、色々な御意見頂きながら、より良い図書館を目指していきたいと思えますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします

以上で、本日の議事をすべて終了いたしました。ご協力ありがとうございました。

※以上をもって委員会は終了